

令和3年度 第5回 政策決定会議 会議録②

-
- ◆開催日時：令和3年9月29日（水） 13：25～13：50
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、戎井副市長、大下教育長
-

◆審議事項

- ・岸和田市公民戦略連携デスクの設置について・・・・・・・・・・企画課・自治振興課⇒承認
-

◆審議概要

『岸和田市公民戦略連携デスクの設置について』

〈説 明 者〉西川総合政策部長、貝口企画課長、林主幹、前田主任
谷口市民環境部長、宇野自治振興課長、松田主幹、濱崎主幹

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件一部修正のうえ承認された旨、報告。

※案件内容は付議依頼書等に基づき説明。政策調整会議における議論内容は、以下のとおり。

【政策調整会議における議論内容】

- ① 公民連携の市のメリット部分やプロセスの文言について検討し修正すること。
- ② 大阪府や他市町村の情報を収集し、本市の連携に活かしていくこと。
- ③ プレスとの連携を図り、PRしていくこと。
- ④ 庁内の個別の事業連携協定締結状況を調査し、庁内全体に周知のうえ活用していくこと。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉公民連携は行財政改革の視点で動き出しているものなので、行政負担軽減のため、ニーズの高いものはできる限り民間の協力を求められるよう、大阪府や他市町村から情報収集しながら、こちらから探してもらいたい。また、公民連携デスクの設置目的は、企業のたらい回しの防止にある。窓口がすぐに検索できるようにしておくこと。これまでの連携については、包括に限らず、個別の連携も含めてホームページで一覧できるように整理してほしい。デスクの立ち上げの日を明確に打ち出して、PRするように。

〈戎井副市長〉公民連携デスクとしての電話を設置するとともに、担当者は名刺にも明記するように。関係部局が多岐にわたることもあるので、関係部局と連携し、企業の相談や提案をしっかりと受け止め対応されたい。

〈教 育 長〉リスク管理をしっかりと行うこと。本市から大阪府へ出向している職員に、コンプライアンスの高め方などノウハウを聞き、整理したうえでスタートできるようにしておくこと。将来的にも大きな利益を伴う事業が単独随意契約とならないよう、契約の妥当性や公正性を確認すること。また、成果指標として、相談件数や締結件数があるが、金銭換算した場合にどれくらいの効果が出るのかもしっかりと見極めていくことは、

公民戦略連携デスクの必要性を市民や議会に理解していただく良い材料になる。

- 〈市長〉最終的な連携協定数のみを評価対象にしてしまうと、連携の質が下がる可能性がある。相談件数や事業の内容も評価できるような仕組みにすること。これまでやってきたことを公民連携デスクで整理することになるが、たらい回しは行政の信頼の低下につながるため、しっかり受け止め、窓口機能を果たしてもらいたい。大阪府の公民連携戦略デスクでは、企業から出向している職員がいる。このような方法も検討されたい。
- 〈教育長〉各部局において、企業から話があった場合、予め部局内である程度話をしてから公民戦略連携デスクに結果を伝える方がよいのか、それとも最初から公民戦略連携デスクに情報を共有、公民戦略連携デスクが調整する方がよいのか、どちらか。
- 〈林主幹〉ケースバイケースかもしれないが、基本的には公民戦略連携デスクにまずつないでもらいたい。
- 〈教育長〉職員にしっかり周知するように。
- 〈総合政策部長〉本案件について、原案どおり承認してほしいか。

【異議なし】

⇒本件を、原案のとおり承認する。

令和3年9月22日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長 市民環境部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市公民戦略連携デスクの設置について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	企業や大学等には、民間ならではのノウハウ、アイデア、技術等、多様な資源があり、岸和田市は、基礎自治体として地域とのつながりがあり、また公共性、信頼性をもっており、大阪府公民戦略連携デスクと連携することも可能である。それぞれの「良さ」、「強さ」を「つなげて」、それぞれが「良し」となるよう、企業等の社会貢献活動やCSV※との連携、大学等の社会貢献活動との連携により地域課題や社会課題の解決、市民サービスの向上、地域の活性化を図るため、「岸和田市公民戦略連携デスク」を設置する。
説明者	貝口企画課長 宇野自治振興課長 企画課 林主幹、前田 自治振興課 松田主幹、濱崎主幹
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

※ CSV: Creating Shared Value の略。社会性の高い事業を行うことで社会問題を解決することによる「社会価値」と同時に、自社の利益も生み出す「企業価値」のどちらをも高めること。

付議会議	令和3年度 第5回会議
付議事項	岸和田市公民戦略連携デスクの設置について

★取組の目的

対象	市民、企業、大学等
どのような状態を目指す	企業や大学等には、民間ならではのノウハウ、アイデア、技術等、多様な資源があり、岸和田市は、基礎自治体として地域とのつながりがあり、また公共性、信頼性をもっており、大阪府公民戦略連携デスクと連携することも可能である。それぞれの「良さ」、「強さ」を「つなげて」、それぞれが「良し」となるよう、企業等の社会貢献活動やCSV※との連携、大学等の社会貢献活動との連携により地域課題や社会課題の解決、市民サービスの向上、地域の活性化を図る。※CSV: Creating Shared Valueの略。社会性の高い事業を行うことで社会問題を解決することによる「社会価値」と同時に、自社の利益も生み出す「企業価値」のどちらをも高めること。

★総合計画上の位置付け

201020101	基本目標	Ⅱ-1 市民と議会、行政がそれぞれの役割を果たす
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(2)三者が、互いの立場を理解しながら問題解決に取り組んでいる
	目指す成果	①お互いが、ともに学び育ちあう関係が築かれている
	行政の役割	ア 分かりやすい協働・参画の仕組みをつくる

★現状と課題

<p>人口減少・少子高齢化や市民ニーズが多様化する等、行政課題は複雑化、高度化しており、もはや行政だけでは課題解決が困難な状況。そのような状況を踏まえて、今後も企業や大学等との連携やネットワークが必要となっているが、企業、大学等から連携事業の実施について相談、提案を受け付ける窓口が不明瞭、各部署にて連携協定を締結しているが、取組が不十分であるといった課題がある。</p>
--

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
公民戦略連携デスクの設置			0					
公民戦略連携デスクの運営				100	100	100	100	100
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源							
	その他							
事業費			計	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
			500	100	100	100	100	100
				ng	ng	ng	ng	ng

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
有		1			
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R1年度	R2年度	R3年度	目標値				
					R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
① デスクがコーディネートした企業等との連携事業を実施した件数	件				5	5	5	5	5
② 企業等からの相談受付数	件				10	10	10	10	10

※事業費及び人員を確約するものではない。